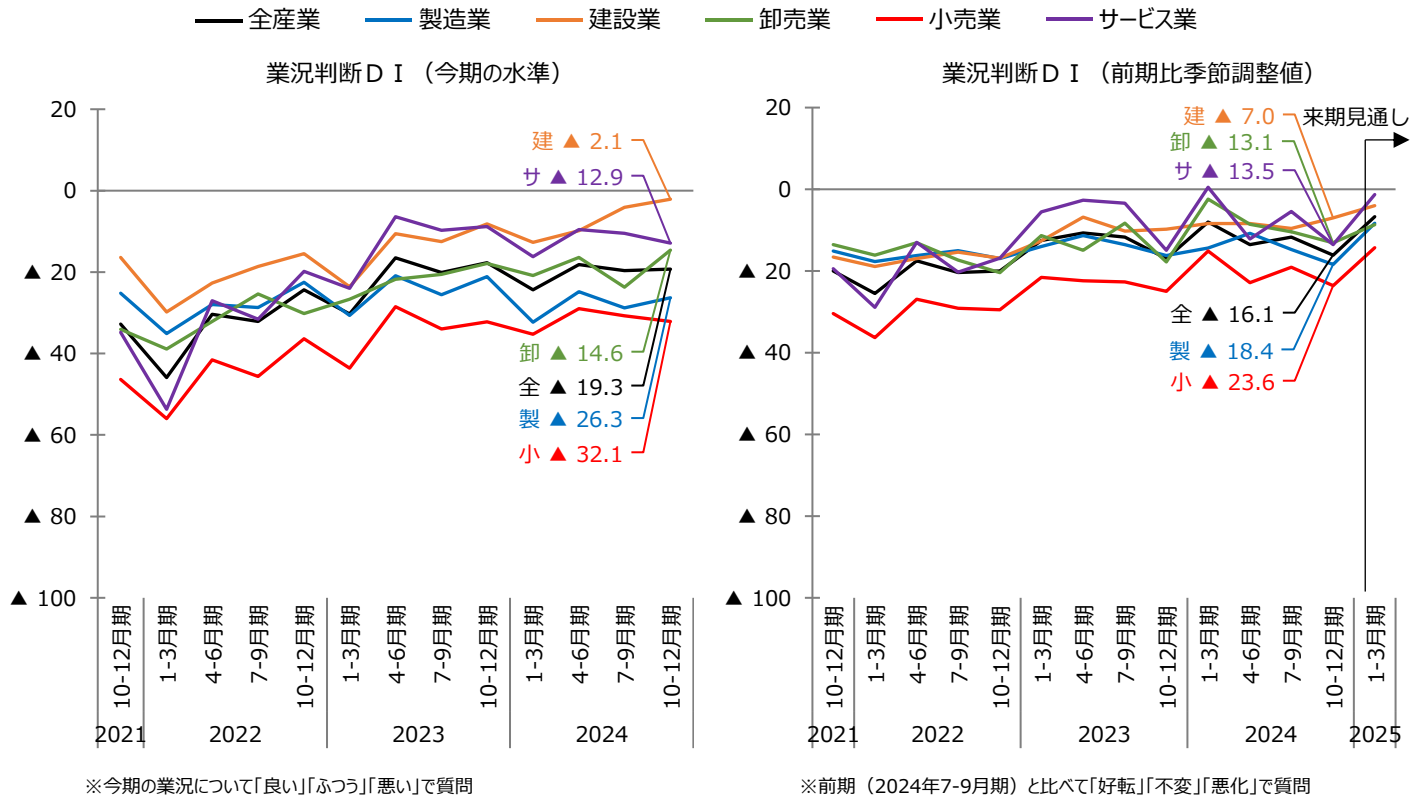


第178回 中小企業景況調査（2024年10-12月期） 関東



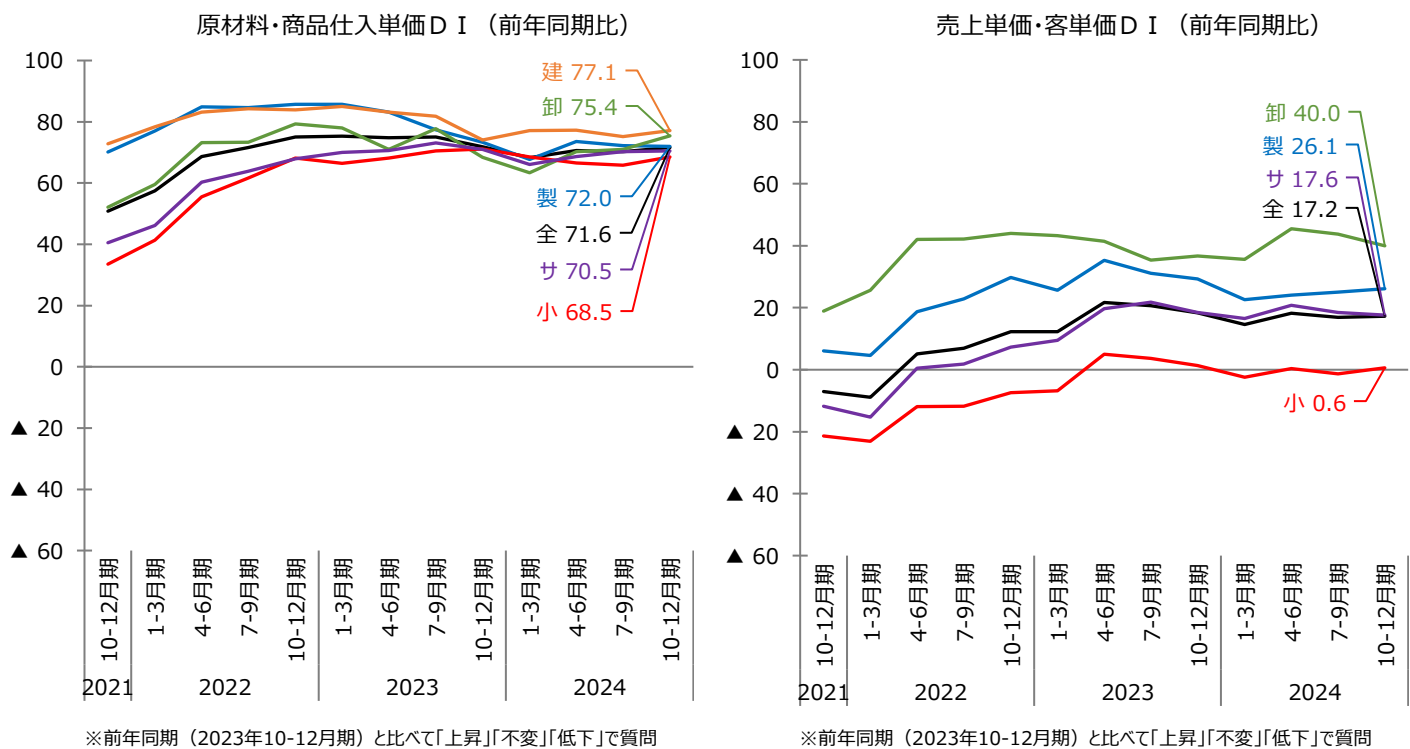
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年7-9月期）より0.3ポイント増の▲19.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、建設業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の71.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、建設業、サービス業で上昇し、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の17.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,592 有効回答企業数：17,565 有効回答率：94.5% うち、関東：4,836企業

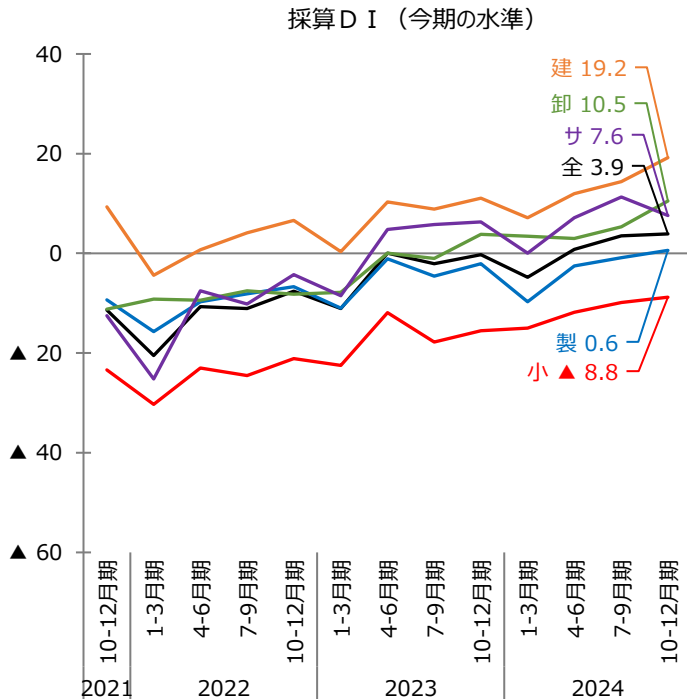
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第178回 中小企業景況調査 (2024年10-12月期) 関東



3. 採算

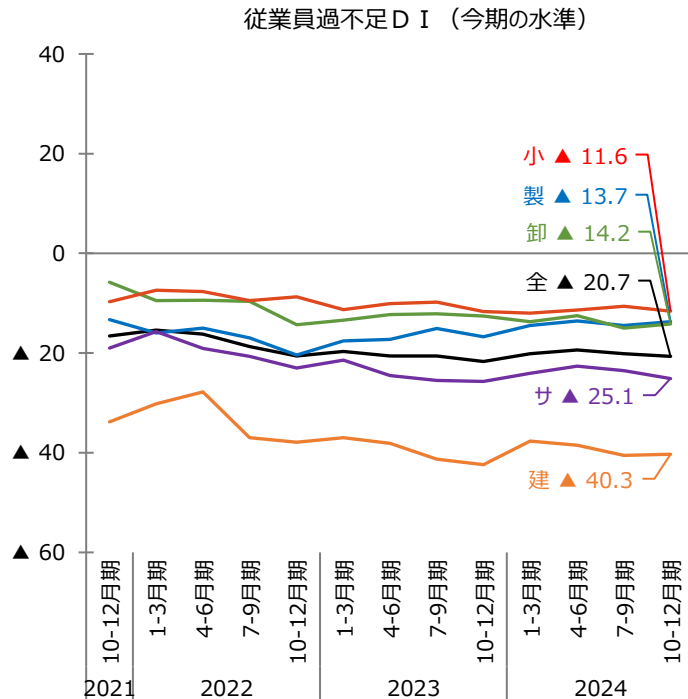
採算DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の3.9と3期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の▲20.7と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	半導体関連以外の中小製造業は、当社を含め需要の停滞状況にあり、今日の賃上げ圧力や製造経費の増加は経営の悪化を招いている。特に先行き不透明な中では厳しさを感じる。	製造業 自動車製造業 (二輪自動車を含む)
	仕事の引き合いがあっても熟練技術者が不足しているため請けられない状況が続いている。また来年から生コン代金も上がるので材料費の増加が見込まれるため、利益の確保が難しくなる。	建設業 土木工事業 (別掲を除く)
	輸入の際、物流の停滞に非常に困っております。港が混みすぎて荷物の到着が読めません。背景には物流ドライバーの不足があるようです。	卸売業 その他の化学製品卸売業
	米の仕入単価が急激に上昇している。米の供給不足は解消されたが、令和6年米については例年よりも2ヶ月早く流通したため、今後また米が不足してくる時期になると米騒動のような状況が発生する恐れがある。	小売業 米穀類小売業
	採算自体は収支トントンであるものの物価高による仕入れ値の上昇、マーケット需要の減少などから若干キャッシュの回転が悪くなってきていると感じる。このまま同じ状況が進むと収支も悪化していく可能性がある。	サービス業 新聞業
見通し	中国のバブル崩壊と世界経済(米国、欧州)のインフレへの対応にて需要が減少しており、自動車販売数も鈍化してきている。再度デフレに向かう懸念と原材料の高止まりや、特に需要が停滞し景気悪化は注視する。	製造業 アルミニウム・合金ダイカスト製造業
	物価上昇ほど賃金は上昇していないため生活にゆとりがなく個人消費が低迷している。また原材料価格の高止まりによるコスト負担増などにより土木工事の依頼がない。	建設業 土工・コンクリート工事業
	業況としては良くも悪くもないが、今後の会社運営を考えると、人材の確保は優先的に行う事項であり、現状は非常に厳しい。	卸売業 家具・建具卸売業
	原材料の高騰による利幅の縮小、ニーズの低下による売上の減少等、経営を不安にさせる要因が多数ある。状況打破するため販路開拓に関する取り組み等の実施を計画中。	小売業 自転車小売業
	地場工務店の住宅受注は低下にある一方、住宅関連は大手ハウスメーカーの分譲案件が目立つ。現場の人手不足で同業者からの外注案件は増えてきているが、価格の交渉が難しく、売上上昇を見込む事が難しいと感じている。	サービス業 その他の技術サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。